鶏卵

◆飼養動向

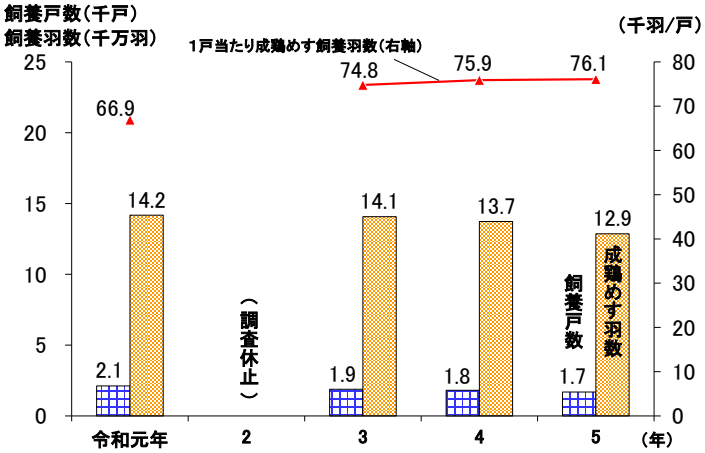
５年２月現在の採卵鶏飼養羽数、前年比５．７％減

採卵鶏の飼養戸数は、小規模飼養者層を中心に減少傾向で推移している。令和５年は、１６９０戸（前年比６．６％減）と前年をかなりの程度下回った（図１）。

飼養羽数は、近年、増羽傾向で推移していたものの、３年以降、高病原性鳥インフルエンザ（ＨＰＡＩ）が発生した影響により毎年減少しており、５年も同様に１億６９８１万羽（同５．７％減）と前年をやや下回った。また、このうち実際に産卵を行う成鶏めすの飼養羽数は１億２８５８万羽（同６．３％減）と前年をかなりの程度下回った。この結果、１戸当たりの平均成鶏めす飼養羽数は、７万６１００羽（同０．３％増）と前年並みとなった。

一方、成鶏めすの飼養戸数および飼養羽数を規模別に見ると、１０万羽以上を飼養する層は飼養戸数全体の２０％を、また、飼養羽数全体の８０％をそれぞれ占めており、経営の大規模化が進んでいる。

図１　採卵鶏の飼養戸数および成鶏めす羽数の推移



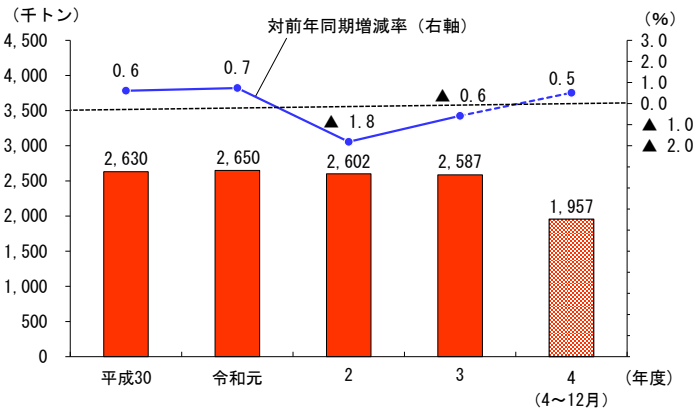
資料：農林水産省「畜産統計」
注１：各年２月１日現在。
注２：成鶏めすとは、種鶏を除く６カ月齢以上のめすをいう。
注３：飼養戸数は、種鶏のみの飼養者を除く。
注４：令和２年は２０２０年農林業センサス実施年のため、調査休止。

◆生　産

４年度４～１２月の生産量、前年同期比０．５％増

鶏卵生産量は、平成２７年度以降、家庭用、業務・加工用ともに需要が旺盛であったことなどから、前年度を上回って推移し、令和元年度は２６４万９８７５トン（前年度比０．７％増）と過去最高となった（図２）。しかし、２年度以降、新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ－１９）の影響により価格が低下したことや、ＨＰＡＩの記録的な発生の影響により、採卵鶏の殺処分羽数が多かったことから、同生産量は２年連続で前年度を下回った。４年度（４～１２月）はＨＰＡＩ発生の影響などを受けたものの、１９５万７１４２トン（前年同期比０．５％増）と前年同期をわずかに上回った。

図２　鶏卵生産量の推移



資料：農林水産省「鶏卵流通統計」
注：令和５年１月以降のデータは未公表。

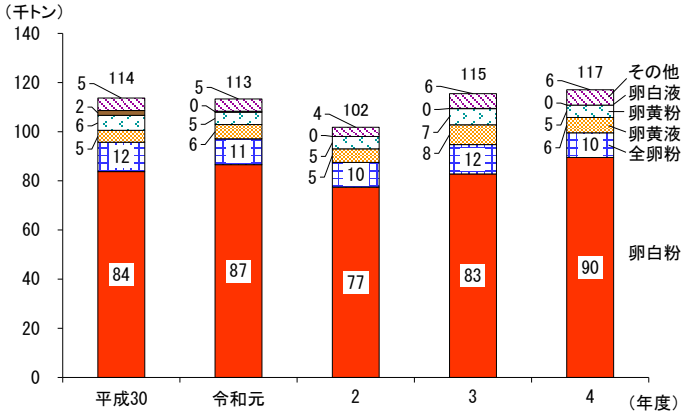
◆輸　入

４年度の輸入量、前年度比１．４％増

鶏卵（ふ化用除く）の輸入量（殻付き換算）は、国内消費量の４％程度で推移している。輸入量のうち、約９割が保存性に優れ、輸送コストの安い加工原料用の粉卵が占めており、主にオランダ、イタリアおよび米国などから輸入している。また、粉卵の輸入量のうち約９割は卵白粉であり、ハム・ソーセージのつなぎの原料などに使用されている（図３）。

令和２年度は、ＣＯＶＩＤ－１９の影響により業務用需要が減少したことなどから、４年ぶりに１１万トンを割り込んだ。３年度は、ＨＰＡＩの影響で加工用の国産鶏卵の代替として輸入されたことなどから、１１万５４５５トン（前年度比１３．４％増）と前年度をかなり大きく上回り、４年度も、業務用需要の回復などにより１１万７０５１トン（同１．４％増）と前年度をわずかに上回った。

図３　鶏卵輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：殻付き換算ベース。

◆輸　出

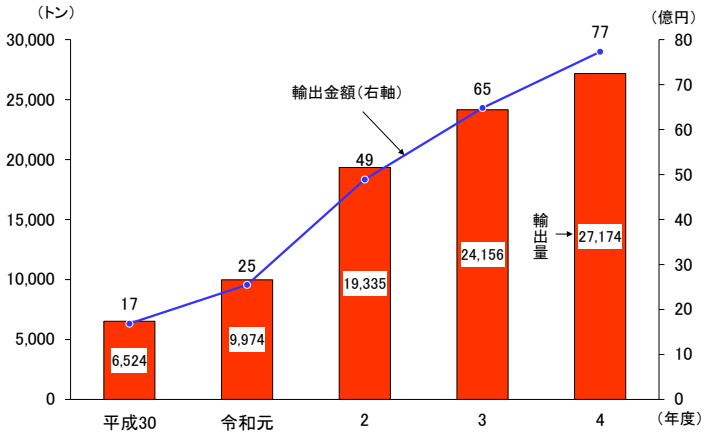
４年度の輸出量、前年度比１２．５％増

近年、鶏卵の輸出量は、高い衛生管理による品質や安心感が評価され、増加傾向で推移している。令和２年度に、最大の輸出先である香港において、ＣＯＶＩＤ－１９の影響により内食化が進んだことなどを背景に、現地の日本産鶏卵の需要が増加し、３年度に続いて４年度も好調に推移した。

鶏卵（殻付き卵）の輸出量は２万７１７４トン（前年度比１２．５％増）とかなり大きく、輸出額も７７億３０９６万円（同１９．３％増）と大幅に、いずれも前年度を上回り、２年度連続で過去最高を更新した（図４）。

輸出先を見ると、香港（２万５２６３トン、７２億６３１１万円）、シンガポール（２９５トン、１億３２７６万円）のほか、台湾、グアム、マカオ、米国に輸出されており、輸出量の約９３％が香港向けとなっている。

図４　鶏卵の輸出量および輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：殻付き卵（食用）。

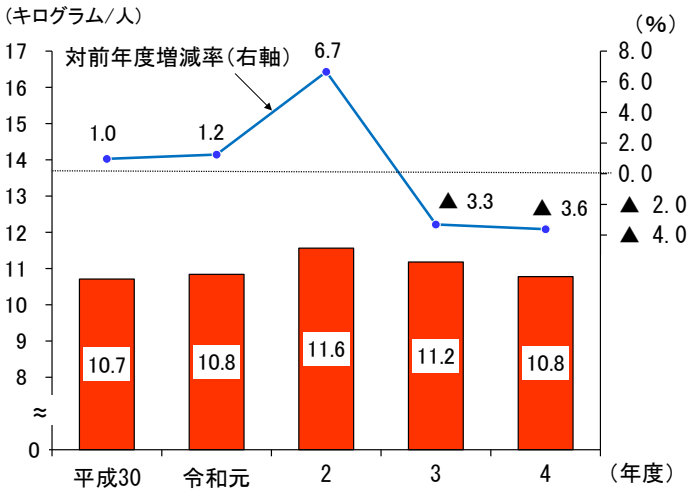
◆消　費

４年度の１人当たり家計消費量、前年度比３．６％減

鶏卵の家計消費量は、量販店などで販売されるテーブルエッグに加え、近年、食の簡便化に対応してコンビニエンスストアなどで販売されている卵加工品の需要の高まりを受けて増加傾向にある。

年間１人当たりの家計消費量は、令和２年度はＣＯＶＩＤ－１９の影響による巣ごもり需要を受けて大幅に増加したものの、３年度は巣ごもり需要に落ち着きが見られたことやＨＰＡＩの影響のため、前年度をやや下回った。４年度は、１０．８キログラム（前年度比３．６％減）と前年度をやや下回り、ＣＯＶＩＤ－１９の影響を受ける以前の元年度との比較でも０．６％減とわずかに減少した（図５）。

図５　鶏卵の家計消費量（年間１人当たり）



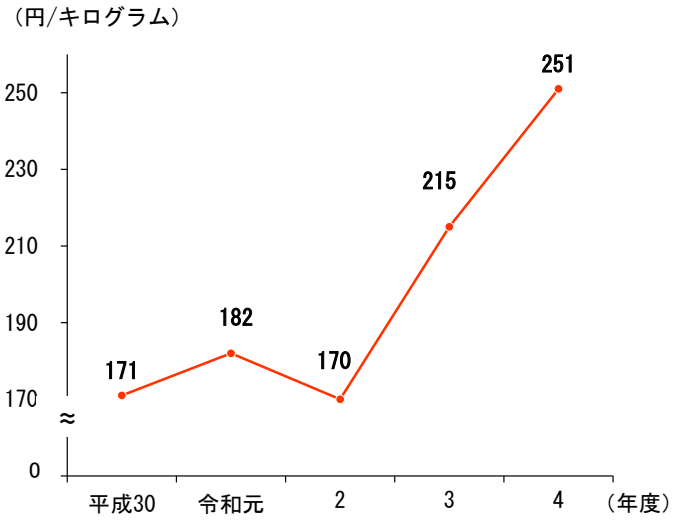
資料：総務省「家計調査報告」

◆卸売価格

４年度の卸売価格、前年度比１６．７％高

鶏卵を使用したデザートやマヨネーズなどの加工向けを含めた旺盛な需要などを背景に生産拡大が進み、需要を上回る供給が続いたことから、平成２８年度以降、卸売価格は低下傾向で推移していた。令和元年度に、成鶏更新・空舎延長事業の発動や台風被害に伴う供給量の減少などを受けて卸売価格は上昇したものの、２年度は、ＣＯＶＩＤ－１９の影響により業務用需要が大幅に減少したことから、再び下落した。３年度は、ＨＰＡＩ発生に伴う大幅な供給の減少により、前年度を大幅に上回る高値となり、４年ぶりに２００円台まで上昇した。４年度は業務用需要が回復傾向にあったことや、生産コストの上昇、また令和４年１０月以降に発生したＨＰＡＩによる採卵鶏の殺処分が飼養羽数の１割強にのぼったことなどから、同価格は１キログラム当たり２５１円（前年度比１６．７％高）となり、前年度を大幅に上回った（図６）。

図６　鶏卵の卸売価格（東京全農系Ｍ玉）



資料：JA 全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

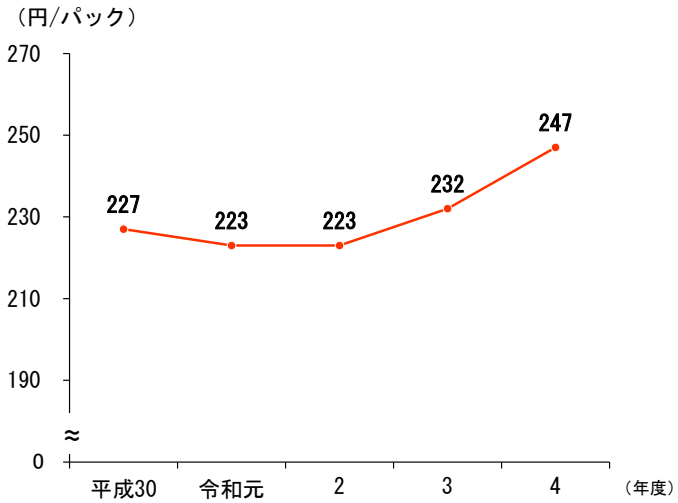
◆小売価格

４年度の小売価格、前年度比６．５％高

国内の鶏卵消費量のほとんどが国内生産で賄われていることから、鶏卵小売価格は卸売価格の変動に影響を受ける傾向がある。

令和４年度の鶏卵の卸売価格（東京全農系Ｍ玉）が、ＨＰＡＩ発生の影響を受けて大幅に上昇したことなどから、鶏卵小売価格（東京都区部）は１パック当たり２４７円（前年度比６．５％高）と前年度をかなりの程度上回った（図７）。

図７　鶏卵の小売価格（東京都区部）



資料：総務省「小売物価統計調査」
注１：消費税を含む。
注２：価格は、平成２９年１２月以前はＬサイズ。３０年１月以降はサイズ混合（卵重「ＭＳ５２ｇ～ＬＬ７６ｇ未満」、「ＭＳ５２ｇ～Ｌ７０ｇ未満」または「Ｍ５８ｇ～Ｌ７０ｇ未満」）。